

## 平成 24 年度第 3 回テンミリオンハウス事業採択・評価委員会議事録

- |                                      |
|--------------------------------------|
| ■日 時：平成 24 年 12 月 19 日（水）18：30～21：00 |
| ■場 所：市役所西棟 8 階 811 会議室               |
| ■出席委員：6 名（欠席 2 名）                    |
| ■事務局：高齢者支援課、保育課、市民社会福祉協議会            |

### 1 開会

### 2 配付資料確認

事務局より配付資料の説明

### 3 議事

#### （1）平成 25 年度事業計画採択

【事務局】 平成 25 年度事業計画に係る運営団体ヒアリングを行うにあたり、こどもテンミリオンハウスあおばの事業計画について事前に説明いたします。事業計画書にある資金計画の内容について、地権者との契約が平成 25 年 9 月末までとなっていることから、平成 25 年度の計画ではこれまでの年度の半額となっていますので、予めご承知おきください。

#### ◆ 平成 25 年度事業計画運営団体ヒアリング

##### 第 1 グループ（きんもくせい、川路さんち、あおば、月見路）

【委員長】 本日はお忙しい中お越しいただきありがとうございます。それでは、早速ですがきんもくせいから来年度の計画についてお願いします。

【きんもくせい】 平成 25 年度の事業計画について説明します。第 1 には、これまで市内在住の 65 歳以上で自力通所が可能な方を対象に、毎週趣味講座や健康体操などといったプログラムを実施し、ランチや喫茶を通じて健康長寿のお手伝いをしてきました。第 2 には、地域住民の方々に喫茶や口腔ケア講座、認知症サポーター養成講座などといった各種講習会に参加いただき、健康長寿の情報発信をしてきました。しかし、これまでは地域の高齢者向けの講座等を行ってききましたので、25 年度の計画では地域住民の年齢を超えた参加を呼びかけていきたいと考えています。

具体的には、これまでの高齢者向けプログラムや講座を大切にしながら、若

い親子が参加できるような地域住民向けのイベントや講座を取り入れたいと思います。

4月には、きんもくせい開設10周年の記念イベントを実施し、6月にはこれまで利用者を中心に実施してきた歌の会のミニコンサートに、喫茶とおしゃべりコーナーを加えて地域住民の方が参加できるようにしたいと考えています。また、7月には境福祉の会や独歩の会といった地域の方達と協力して、たなばたの夕べの実施を考えています。夕方に施設を開放し、地域の方々の交流の場にしたいと考えています。8月から9月にかけては、運営団体であるNPO法人ワーカーズコープの外郭団体である一般社団法人日本社会連帯機構のプログラムを活用して、暮らしのサポーター講座を実施し、地域の役に立つ人材を育成することを考えています。11月にはこれまでバス研修旅行を行っていました。これは好評のイベントではありましたが、参加者の高齢化の影響や参加人数が20人程度に限定されることを考慮し、平成25年度では「きんもくせいまつり」を開催し、地域の老若男女の方々に来ていただけるイベントにしたいと思いません。

他の取り組みとして、小さな庭プロジェクトの推進を図りたいと考えています。これまでもこのプロジェクトを通して庭木の剪定やプランターの手入れを行い、小さな庭の活用をしてきました。その中で、夏みかんを使ったマーマレード作りは、これまで利用者やスタッフの方を中心に行ってきましたが、これからは地域の若い親子にも呼びかけて参加いただけるようにしたいと思いません。

最後になりますが「みんなでつくる みんなのきんもくせい」を大切にして、働く者同士、利用者やボランティアの皆さん、地域や行政の方々と協同して、より良いきんもくせいを目指していきます。

**【副委員長】** 地域住民の方に来ていただくという姿勢は良いと思いませんし、小さな庭プロジェクトも良いネーミングで、良い取り組みだと思います。一方で、きんもくせいの施設自体やや狭いという点があります。地域住民の方を受け入れることについて、どのような方法を考えているのでしょうか。また、どのように狭さを克服しようと考えているのでしょうか。

**【きんもくせい】** 地域住民の方へは、独歩の会の方を通じて呼びかけをしたいと考えています。現在もご協力いただいています。100枚ほどチラシを撒いていただいたこともあります。施設の狭さについて、例えばマーマレード作りなどは親子であれば4～5組にメインルームで行っていただくことや、煮る作業もキッチンでは限界がありますので、マーマレード作りのイベント自体を

4～5回に分けて実施するなどの工夫をしたいと思います。

【委員】 平成 25 年度運営団体公募に係る事業提案書には、開設日数を 270 日としていましたが、今回の事業計画では 300 日になっています。一方、人件費のデイサービススタッフ賃金において、スタッフの時間数が 4,800 時間から 4,600 時間に減っています。このことについて伺います。また、これは確認ですが、予定している新規採用者は市内の方ということでしょうか。

【きんもくせい】 時間数については無駄をなくすことで改善を考えています。利用時間のスタッフ体制はこれまでと変わりませんが、それ以外の時間帯を見直すことや、半日勤務体制をとるなどの工夫をしています。具体的には、午後の講座のない時はスタッフ数を減らすことができると思いますので、柔軟な対応を考えています。新規採用者については、市内在住者を予定しています。

【委員】 地域の担い手育成事業のくらしのサポーター講座について、一般社団法人日本社会連帯機構の方が来て講座を行うということでしょうか。

【きんもくせい】 正確には、日本社会連帯機構のプログラムを活用するものとなっています。講師については、地域の方や学識経験者等をお願いしたいと考えています。

【委員】 それで社団法人の修了証発行ということになっていますが、その社団法人のプログラムと合致した講師の方でないと修了証は発行できないということでしょうか。

【きんもくせい】 はい、そうです。

【委員】 また、この講座は有料と書かれていますが、収益事業となりますと講師への謝礼などが含まれていると思います。そのことについて、事業計画書のどこに記載されているのでしょうか。

【きんもくせい】 講師謝礼や資料印刷等に費用が掛かると考えており、そこに反映させています。具体的には、講師謝礼は事業資金計画書の報償費に計上しており、資料印刷等の経費は各種講習会費に計上しています。

【委員】 修了証を発行し、受講者がそれを用いて活動することは可能なのでしょうか。また、そのような場の提供は考えているのでしょうか。

【きんもくせい】 例えば、認知症サポーター養成講座や救急救命のプログラムもありますので、勉強すれば何かあった時にお手伝いできるであろうと思います。

【委員】 そのことについては、事業計画書の「中長期目標」の中に書かれていないのですが、いかがでしょうか。

【きんもくせい】 事業計画書の「中長期目標」にあるくらしのサポーター講座の内容はひとつの例として記載しています。

【委員】 そういうことでしたら、例えば認知症サポーター養成講座や救命救急に関する事柄などは、行政機関等としっかり連携して盛り込まないといけないと思います。むしろ、市などが行っている認知症サポーター養成講座や AED 講習会の方が有益な場合があります。その場合、しっかりとした修了証が発行される他、知識・技術の習得がしっかりと行えます。日本社会連帯機構が何を保証するのかという問題もあります。また、市で行っている認知症サポーター養成講座は受講者にオレンジリングが配布されます。さらに、市の認知症サポーター養成講座は無料で行われています。そういった点から、認知症サポーター養成講座はくらしのサポーター講座と一緒に考えることはできないと思います。

【委員長】 くらしのサポーター講座を行うにあたり、日本社会連帯機構にプログラムの使用料を払うのでしょうか。

【きんもくせい】 日本社会連帯機構への支払いはありません。

【委員長】 そのプログラムはどんな団体でも使用できるのでしょうか。

【きんもくせい】 要請があれば、日本社会連帯機構から出すと思います。

【委員長】 この日本社会連帯機構の性格が少し分かりません。

【きんもくせい】 日本社会連帯機構は、私達組合員が毎年従業員の報酬の中から 500 円ずつ拠出し、昨年一般社団法人の認可を受けたボランティアの団体です。目的としては、とにかく助け合いの輪を広げていきたいというところにあります。もともとは NPO 法人ワーカーズコープの清掃現場のノウハウ等を暮らしに役立つものとして発信したいとされたものです。

【委員長】 いずれにしても、有料でくらしのサポーター講座を実施するので、自己負担が生じます。有料で行う場合は、受講者が納得するような説明をするようにしてください。

【委員長】 それでは続いて、川路さんちをお願いします。

【川路さんち】 川路さんちは先月の 11 月に 13 周年を迎えました。グループの代表が変わってからは 5 年になりますが、その間に編み物やコーラス、書道などのプログラムを始め、利用する方が増えてきました。川路さんちでは利用者が自由に過ごしているのもので、そこに突然プログラムを入れていくことは困難でした。ゆっくり、のんびりと時間を過ごされている方達を大切にすると共に、

新しくプログラムに参加する方に来ていただくことも大切なので、両方を尊重して月2回プログラムを組むこととし、現在も続けています。

13年経ちますと80歳から施設を利用されている方はもう93歳になります。ここ2、3ヶ月では、お風呂場で倒れてこれまで元気に通われていた方が急に亡くなられたり、認知症が進行し施設等へ入所された方がいたり、川路さんちへ来所することが一人では難しくなり、時間を減らして必ずご家族の送り迎えをしてもらうようになった方などが現れる状況になっています。その他、欠席の連絡を受けていないのに「連絡をしたはず」と欠席される方が多くなり、毎日そのような対応に時間を費やすことが多くなってきています。

高齢になると、慌ただしくバタバタと過ごすことが嫌になるので、ゆっくり皆さんとお話をしながら、食事も1時間かけて召し上がっていただいています。そんなゆったりとした雰囲気がとても大切だと思いますので、様子を見ながら新しい利用者が来ていただくためのプログラム等を考えていきたいと思っています。平成25年度も、これまで来所されている方々を大切にしながら、また、様子を見ながら少しずつ新しいことを考えていこうと思っています。

その他、地域向けのイベント等についてもこれまで通り続けていきたいと思っています。

【委員】 利用者の方の高齢化が課題で、新しい方を増やしていきたいというお話でしたが、具体的にはどのように増やしていくことをお考えでしょうか。また、利用者の実績について、見込みは2,800人で見ていただいています。平成23年度の実績が2,542人、その前の平成22年度の実績が2,760人と減ってきています。その減っている理由についてはどのようにお考えでしょうか。

【川路さんち】 平成25年度の見込みは少し抑えました。それは、イベントを行う時に人数が数十人と集まり、よく床が抜けなかったなという話が出るくらいの方に来ていただいております。消防署とはまだ話をしていませんが、この広さにどれくらい的人数を入れて良いのかという基準があると思ったからです。そのようなことを考えますと、どんどん入れることも考えなくてはいけないなと思っています。また、通常の開設日についても、あまり広くない台所で食事を作ることに対し、20名以上だと様々な制限が出てきます。その基準をクリアするためには、20食以下に抑えたいという考えがあります。よって、20食を超えてしまう場合は、食事の面で対応に困りますので、食事の後にプログラムへ参加していただだけませんかとお勧めしています。

新しい利用者の取り込みについては、地域のコミセンだよりや福祉の会の福

祉だより、西久保一丁目町会の会報誌にプログラムの宣伝等を載せていただいていますので、そういったものを活用したいと考えています。また、現在通われている方のお友達で来たい方がいましたら、是非お誘いくださいというようにしたいと思っています。

【委員】 そのような方法は現在も行われていないことではないと思いますが、いかがでしょうか。

【川路さんち】 そうですね。積極的には行っていなかったということです。

【委員】 利用者数についてですが、次年度の計画では2,800名を見込んでいますので、これまでの実績に対して多く見込んでいるのではないのでしょうか。

【川路さんち】 平成24年度の事業計画の3,000人の見込みに対して抑えたということです。

【委員】 現在の代表者はグループに所属して13年5ヶ月、代表になられて5年とのことですが、もちろん良い点もあると思いますが、運営の面でマンネリ化してきているところはないのでしょうか。例えば、利用者の席が決まっていて新しい方が入りづらいといったことはないのでしょうか。また、そのようなことに対してどのような工夫をされているのでしょうか。

【川路さんち】 グループ萩の会が運営をして13年以上になりますが、全員が13年以上スタッフだった訳ではありません。最初の代表者は非常にやり手の方で、代表1人で引っ張っていました。それを横から見てきましたので、そこから改善すべき点は改善してきました。よって、それまでの運営方法とはかなり違ってきています。スタッフも変わってきているので、マンネリというよりはあまり変わらない場所、ゆっくりできる場所という風に利用者の方も感じていると思います。

席はいつも同じメンバーだと決まってしまうのですが、ここは先着順にしていますので、来た方が空いているところに座っていくことになっています。

【副委員長】 90歳以上の方が利用されている状況から、これまで通われていた方が急に亡くなられるというケースもあるようですが、地域の方を他に任せるのではなく、最後まで地域で看取るという考え方・アイデアをお持ちなのでしょうか。できる限り希望される方を断らないようにという風にお考えだとは思いますが、いかがでしょうか。

【川路さんち】 とにかく川路さんち大好きという方が多いのですが、ちょっと他の利用者さんに迷惑がかかるのでという方については、ご家族の方と話し合っただけで日数や時間を減らしながら受け入れていくと思います。我々スタッフが

小さい頃からお世話になった方が来所されていることもあるため、本当に恩返しのつもりで来られる間は来ていただきたいと思います。

【委員長】 続いて、あおばをお願いします。

【あおば】 平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災の影響による耐震問題から今年度は入り、お陰様で 9 月末 1 週間閉館して耐震補強工事を実施していただきました。その結果、私達スタッフは「あおばは危険なんじゃないか」という不安からお母様達は来所されないのではないかと感じていましたが、逆に今年度は利用者が増えてきている状況にあります。9 月末に耐震補強工事が終わったということ踏まえ、更にまたこの数ヶ月は預かりやあひる事業が増えてきております。あおばは耐震等の問題から来年度は半期ということで事業計画を作成しています。今の状況で言うとかかなり利用者は増えてきていますので、残りの半期も増えることが予測されます。私達は、その半期も大事にお母様達やお子様達を守っていききたい、安心・安全な場所をつくっていききたいと思います。また、この事業をどこかに繋げていければ良いと考えています。このまま半期で終わってしまうのではなく、どうにかしてどこかに繋げていければ良いかと願っている毎日です。あおばのコンセプトとしては「おばあちゃんの家」、つまり皆さんが安心・安全・あったかい場所に入ってきたという気持ちでいていただける場所を毎回つくってきています。

また、事前に評価委員の方から質問を受けているのですが、あひる事業の有料と無料の割合について、昨年度までは無料が 9 割、有料が 1 割という割合でしたが、震災を受けてお母様達が子どもと 2 人、3 人でお家にいるのが不安という面からでしょうか、あおばに来てスタッフと一緒にいる方が安心ということ踏まえてでしょうか、今年度につきましては 10 月現在で有料でも 3 割近く伸びてきています。お金を払ってでも、この場所にいたいという方が増えてきていると感じています。また、あひる事業について無料の方が多いというのは、支援講座を 2 年前までは 300 円の入館料をいただいていたのですが、支援ということ踏まえて、わらべ歌と親子遊びといった支援講座も昨年度から無料とされていますので、その影響もあって無料の日の利用者が増えてきていると思います。わらべ歌、親子遊びなども 1 回で 24 組の親子が参加され、かなり盛況になってきています。

現在私達が進めているのは、小さい頃預かっていた方達が戻ってきているという状況、つまり自分達がボランティアとして子ども達を見たいという方や自

分の弟や妹がお世話になり、歌の勉強をしているからと言って音楽をしに来てくださるなど多くの方が11年目を迎えて戻ってきている状況にあります。それを無駄にしないよう努めていきたい25年度だと思っています。

【委員】 地域になじんできて、知名度も広がってとても良い施設運営ができているなど思っていますが、来年の9月末で一時終わってしまうのは残念だと思います。

先ほどのお話の中でご説明いただいたあひる事業の有料・無料の割合についてですが、実際の人数を伺いたいと思います。

【あおば】 昨年度の実績で言いますと、無料が1,592名、有料が184名となっています。今年度で言いますと、10月現在で無料が582名、有料が201名となっており、前年よりも有料がかなり増えてきています。

【副委員長】 2件目、3件目のあおばを期待していましたが、来年の9月末で0になってしまうということで残念です。丁度良い具合で施設が周知され、利用者が増え、ボランティアも増えてきているということですが、施設がなくなる中でそのような利用者達をどうにかしようとお考えなのか、それとも仕方がないとお考えなのかお聞かせください。

【あおば】 実際にはやりたい気持ちはどこでもあります。ニーズがそれぞれありますし、あおばの利用者はここしか特徴を持った施設はないので全市的に見えなくなっていますが、施設と建物の兼ね合いで保育施設という点から1階に避難経路を持っているといった建物がないという状況があります。あおばの耐震補強工事を実施する前に色々な物件の話も出ましたが、結局そこに辿り着くことができず、耐震補強工事を実施したという現実です。子育て支援施設として運営していく上での耐震基準や選定というところで、私達運営団体が単独で施設を運営するのは、物件を探してというところを含めるとかなり難しいと思います。現在私達が行っている子育て支援をご理解いただき、別の所でやれるのであれば、やる気は充分にあります。

【委員長】 ひろば事業の利用者が増加傾向にあるとのことでしたが、宿泊の方も増えているのでしょうか。

【あおば】 今年度につきましては月に1度は必ずあり、先月については緊急の当日受付で2件入りました。宿泊も含め、早朝・夜間の保育もかなり増えてきています。

【委員】 先ほど単独で事業を実施していくことは難しいというお話をいただきましたが、お泊り保育もあるのでコストがかかる事業をなさっていると思



ます。そういった点では、少し事業の見直しをすることによって、場所さえあれば事業が継続できるのでしょうか、それとも財政的にも厳しいのでしょうか。また、平成 25 年度で特に取り組みたい内容として「更にスタッフの傾聴・共感のスキルを磨き」とありますが、これはスタッフに対する研修プログラム等があるのでしょうか。

【あおば】 施設があることとコスト面の両方が必要だと考えています。施設が既に用意されているのであれば、コストはテンミリオンハウスの形であれば是非やらせていただきたいと考えています。それに即したスタッフも実力をつけてあおばに勤務しているので、せっかく培った人材をなくしてしまうのはとてももったいないという気持ちはあります。

スタッフ研修につきましては、都の認可外ということになりますので、その研修にはスタッフ全員参加しています。また、保育課で行う研修やひまわりママで行っている「スキルアップ」という研修もあるので、そういった研修を利用してスキルを上げています。

【委員長】 それでは、第 1 グループ最後となりますが、月見路お願いします。

【月見路】 4 月から運営を開始し約 8 ヶ月半経ちましたが、これまでの振り返りと平成 25 年度に重点的に取り組みたいことについて説明します。

この 8 ヶ月半でできたこと、できなかったこと、思わぬ展開になったところが様々ありました。

できたこととして、ランチと喫茶の定着を挙げたいと思います。ランチは今年度の計画では 1 日平均 6 食としていましたが、実績としては平均 7 食になっています。喫茶も 1 日 10 品という計画でしたが、それもクリアしています。

できなかったことは、ボランティアで看護師が健康チェックしてくれるということで月 1 回お願いすることで進めていきましたが、利用者の中で既にかかりつけ医をお持ちなので、毎月健康チェックの相談は必要ないという実情でした。よって、5 月の食中毒が心配になる季節と 1 月の風邪やインフルエンザが流行る頃に来ていただいて、かかりつけのお医者さんではゆっくり話せないようなことや日頃気を付けるべき点などを健康チェックという形で補えたら良いと考えています。

また、現在パソコンがないため、ブログを開設して月見路の宣伝や告知をしたいと考えていましたが今のところできていません。しかし、月刊つきみじを毎月 1 回発行しており、そちらの方で補えているのではないかと思います。そ

の他市役所のホームページに月見路のプログラムやメニューを載せていただいています。それを見て実際に来所いただいていることもあるので、ブログは開設できていませんが、その辺りはカバーできているのではないかと思います。

思わぬ展開になったことは、異世代交流を重点的に挙げ、乳幼児親子に来ていただけるスペースと日時を確保しようと考えていましたが、実際に運営してみるとスペースや日時を取っ払うことで今来ていただいている利用者と乳幼児親子が自然な形で交流できるようになったということです。小さいお子さんがいると特に女性の利用者はニコニコ笑顔でいらっしゃいます。これは本当に良かったと思います。

また、ボランティアは小学生から 80 代の方に来ていただいています。11 月現在で延 284 名のボランティアの方に来ていただいています。単発のイベントとしてお茶講座やフラワーアレンジメントを実施していますが、これらは地域の方々から「こういうことを月見路でやりたい」という申し出をいただいて実施しているものです。今のところ月見路サイドから人探しをするということはなく、来年の 1 月もアロマ講座など申し出をいただいており、これは本当に嬉しく、思わぬ展開でした。

平成 25 年度に力を入れていきたいこととして、ランチ利用者をもう少し増やしていきたいと思っています。取り組んでいることとして、夫婦での利用を何とか増やせないかと思っています。ご主人様がお昼にいらっしゃる場合、なかなか奥様一人では来ていただけない、お家でご飯を作らなければならないということがありますので、夫婦揃って来ていただけるような取り組みができればと考えています。実際にお二人で来てくださった方もおり、その時は会話がはずんでいましたので、そのことを現在来てくださっている男性の利用者、女性の利用者に伝えていければと思っています。また、土曜日のパンランチを現在試験的に進めています。こちらも徐々に定着させていければ良いと思います。

また、防災について、先日も非常に大きな地震がありました。今年度はスタッフのみの防災訓練を実施し、月見路から一時避難所までの避難経路を確認しましたので、来年度は利用者も参加しての防災訓練を取り組み、その後は市の防災課と連携して話を伺うなどして強化していければと思います。

月刊つきみじについては、毎月楽しみにしてくださっている方もおりますので、ポスティングを委託しているワークセンター大地と連携を取りながら、少しずつでもポスティングの数を増やし、周知・告知を広げられればと思います。

**【副委員長】** 今回運営団体が変わったという初めてのケースですが、最初の

利用者との関係はいかがだったのでしょうか。

【月見路】 私達の方が新参者だった訳で、利用者の方が10年いらっしゃったということもあったため、まずは運営団体であるグループ撫子と利用者との顔が見える関係、信頼関係をつくるということに重点を置きました。最初は利用者も「どんな人が来るのだろう」と構えていましたし、私達も努めて明るくするというので顔が強ばらないようにできる限り笑顔で過ごしてきました。来てくださった利用者とその日入ったスタッフ全員が話をするよう心掛け、こちらから利用者のお名前を覚えるよう、また、極力お名前と呼ぶように、間違えても良いので声に出してお名前を呼ぶようにしました。また、乳幼児親子も4月当初から受け入れようと考えていましたが、まずは今来てくださっている利用者との顔つなぎを大事にしないと、新しい運営団体になって「自分達の居場所ではなくなった」と思われることがあってはいけないと思いましたので、その辺りはかなり重点を置いて運営しました。そういう面では非常に苦労しましたが、夏祭りの辺りからスタッフも肩の力が抜け、利用者も自然と笑顔が出るようになったので、今は順調に進んでいるかと思います。

【委員】 夫婦で昼食に来ていただくことをお考えのようですが、逆にスタッフの皆様もお若いので、皆様のご主人が月見路の活動を手伝うことはあるのでしょうか。

【月見路】 4月1日から8日まで、開所準備ということで準備を進めていたのですが、実際にペンキ塗りや家具の組み立てを行い、土日に行った時はスタッフの家族もボランティアとして参加しました。また、夏祭りの時のテント張りやかき氷の機器の運び出しは、夫に頼んで手伝ってもらったこともあります。

【委員】 事業資金計画について、消耗品費の支出が今年度の予算よりもかなり増えているのですが、そのことは他の事業に影響が出ないのでしょうか。

【月見路】 全体を見て予算は立てているので、結論から申しますと、どこか他のところで我慢していることや削減しているということはありません。人件費について今年度はどのような運営になるか分からなかった部分もあったため、非常にスタッフ体制を厚くしました。実際運営していくと、時間に余裕があり過ぎるスタッフが出てきたりしましたので、プログラムのない日はスタッフ人数を減らすなど見直しをしました。なお、消耗品費が多いという点につきましては、前の運営団体が10年運営しそれを引き継いだ訳ですが、1万円以下の備品の中でホワイトボードが使えなくなって修理をしながら使用していることや食事に使うサランラップやお箸といった細かい物がなかったもので、初期の設備

投資が4月・5月は大変だったということがあります。それでもまだ揃っていない物があり、ザルが歪んだままだったり、鍋もスタッフの物を借りたり、カフェのお菓子の型などもスタッフが持ち寄って節約しながら行っている状況です。収支を見ながら本当に必要な物をこの機会に購入したいと考えています。

【委員長】 開設準備金というのは市から補助が出ているのでしょうか。

【月見路】 いただいておりません。他の施設と一緒に、運営費補助の中で行っています。

#### ◆ 平成 25 年度事業計画運営団体ヒアリング

##### 第 2 グループ（花時計、関三倶楽部、くるみの木、そ〜らの家）

【委員長】 それでは第 2 グループのヒアリングを行います。まずは花時計からお願いします。

【花時計】 私達スタッフは初心を忘れずに、今までの事業を継承しながら、先日の公募の際の委員会でもいただいたご意見をしっかりと受けとめて次年度以降の運営に活かしていきたいと思っています。

私達スタッフは、運営をしていく上で常に心に刻んでいることが2つあり、1つは日々の活動の中で利用者との会話を大切にすること、もう1つはホスピタリティの精神で、おもてなしの心で対応し、居心地の良い空間を提供し利用者には笑顔になって帰っていただくことを深く心に刻み、それらを根底に置いて日々活動しております。

来年度目標に掲げたことを一つひとつ着実に成し遂げていきたいと強く思っています。

【委員】 土曜日をお休みにしていますが、土曜日の施設開放等について何かお考えはありますか。

【花時計】 平成 25 年度に関しては特に考えていません。最低賃金の兼ね合いもあり、花時計はスタッフそれぞれに担当を設けて、利用者へのきめ細かい対応を行っていますので、土曜日開所となるとそれだけの人件費が出ると思います。また、来所しているお母様達に聞いたことでもあります。土曜日はご主人様がお休みということもあり、ご主人様との生活を大事にするということや、上のお子さんがある方は土曜日に習い事があるなどということから、土曜日に来るということは難しいという話を伺いました。よって、特に平成 25 年度については土曜日の開所を考えていません。

【委員】 地域のニーズとして、土曜日に開所して欲しいということはあるのでしょうか。

【花時計】 現在来所されている方は、高齢者は 200 名弱おられますが、その方々からの声は特にはありません。

【副委員長】 地域社協と共催で実施している「おしゃべりサロン」について、お一人暮らしの方が来られているようですが、実際にはどのような方が来られているのでしょうか。また、家族を介護している方のきっかけづくりなどは行っているのでしょうか。

【花時計】 おしゃべりサロンは地域の民生委員の方が中心となって行っているので、民生委員の方がお一人暮らしの方々に声をかけて、食事をした後おしゃべりを楽しむという内容になっています。家族介護という点については、近くの「ぐっどういる境南」で在宅介護支援センターとの共催で行っているので、私達は在宅介護支援センターとは年 3 回は地域の抱える問題について一緒に考えましょうという会は行っています。家族介護の方をとということについては、近くのぐっどういる境南で行っているため、特に花時計では考えていません。

【委員】 年間利用者数の見込みについて、平成 22 年度、23 年度と実績で見ると少し減っていると感じております。具体的には、平成 22 年度の実績が 7,100 人程度、23 年度は 6,200 人程度となっていますが、何か理由があるのであればお聞かせください。

【花時計】 特に利用者の人数が多ければ良いというものでもないというご意見をいただいたので、居心地の良い空間を利用いただくための人数ということもあり、イベント等の人数に少し上限を設けたということもあります。

【委員】 例えば、先ほどのヒアリングで川路さんちにおいては、利用者の高齢化が原因で来所される回数や人数が減っているように、花時計においてもそのような原因があるのだろうかと思ったのですが、いかがでしょうか。

【花時計】 特に高齢になってお越しにならなくなったという顕著な数は出ていません。

【委員】 そういう理由よりも、やはりイベントで制限を設けたということでしょうか。

【花時計】 そうですね。日常的には特に人数が減っているということは感じられません。今日も 65 名の方の利用があったので、曜日にもよりますが減っているという感じはしていません。

【委員】 今日は 65 名の利用があったということですが、1 日の平均で 27 名

程度の見込みであり、平成 23 年度の実績は 1 日平均 26 名でしたが、その 2.5 倍となるとどんな状態だったのか教えていただけますでしょうか。

【花時計】 今日の高齢者が 20 名強、小学生はお茶とお琴の講座があったので 14 名、乳幼児が今日は多く 30 名近くいました。今日は「英語で歌って遊びましょう」という講座がありましたので、高齢者の 90 歳代の女性も一緒になって、クリスマスを楽しんだということです。本日は 18 時まで運営していたので、結果的には 65 名の利用がありました。

【委員】 その時のスタッフの体制についてですが、臨時で別のスタッフに来ていただくなどするのでしょうか。

【花時計】 そういうことは特にありません。児童講座のお琴担当、お茶担当は午後から来ますし、乳幼児の午前中の講座は担当と施設長が一緒に行い、ボランティア講師がお二人という状況で実施しています。

【委員】 大勢の方が来所されると、事故などトラブルが発生する可能性もあるので、スタッフの補充をしているのかなと思います。ありがとうございました。

【委員長】 初心を忘れず、地域に根ざした施設運営をこれからもお願いします。

【花時計】 頑張ります。ありがとうございました。

【委員長】 それでは関三倶楽部お願いします。

【関三倶楽部】 平成 25 年度の取り組みについて、ショートステイの個別対応の充実に力を入れたいと思っています。食事や入浴についても、それぞれ利用者の希望に今まで以上にお応えできるよう柔軟に対応していきたいと思っています。

長く利用されている方が多く、皆様お年も召しましてお体の状態が不安定になり、認知の症状も進んできており、介助という点ではかなりスタッフも大変になってきました。しかし、他の施設よりも長く通ってくださり、関三倶楽部に来たいという方が多いので、何とか頭を使って入浴介助をするなどスタッフ一同努力しています。

「介護の困り事何でも相談」の実施について、カードが出来上がりましたので、現在それを様々な場所に設置し、少しでも皆様のお役に立てるよう努力していきたいと思っています。

【委員】 配布された相談カードを見まして、とても良いと思い、色んな方がこのカードを利用できると良いと思いました。事業計画書のこれまでの活動内

容の中に「手打ちそばの会」を実施したと書かれていますが、どんな内容だったのか教えていただけますでしょうか。

【関三倶楽部】 手打ちそばの会はこれまで4、5回実施しており、結構好評いただいているイベントです。スタッフがそば打ちの講習を受けに行き、そば打ちのセットを準備して、地域の方や利用者に来ていただき、皆さんと一緒にそば打ちをし、その場で出来立てを食べています。

【委員】 参加者は地域の方や利用者ということでよろしいでしょうか。

【関三倶楽部】 地域福祉の会の方や利用者のご家族に声をかけています。利用者については、すべての利用者がこのようなイベントに参加するのは難しいところもあるため、利用者の中でもご自分の意思で動くことができるような方に声をかけています。

【委員】 認知症の方や介助が必要な方のセーフティネット的な役割を担っていると思いますが、高齢化が進む中、現在の体制で今後も対応していくことは可能でしょうか。また、ニーズは増えてきているのでしょうか、或いはそれほどでもないのでしょうか。

【関三倶楽部】 時期にもよりますが、ニーズとしてはまだまだ隠れている部分があると認識しています。今、関三倶楽部でもショートステイの申込みをお断りしている時期とそうではない時期と様々ですが、ケアマネジャーからするとショートステイを利用できず困っている人はたくさんいます。関三倶楽部を紹介したいところですが、日程が合わないことや予約がいっぱいということもあって紹介しきれないこともあり、悔しい思いをします。関三倶楽部のような施設がもう少しあれば助かると思っています。

【委員】 実際には、利用者がいっぱいの際はお断りせざるを得ないということですね。

【関三倶楽部】 そうですね。仕方がないと思います。

【委員】 市からの補助金は1,000万円ですが、収支を見ますとそれをオーバーしています。そういったところから、利用料等が収支と合わないのではないのでしょうか。

【関三倶楽部】 今回の相談カードにしても、関三倶楽部の予算ではやり切れるものではないと思います。しかし、予算を切り詰めることに時間や頭を使うより、もっと働くことに費やしていきたいと思いますので、積極的に動いて行こうと考えています。

【委員】 例えば、スペースが広がれば利用者が増え、それに対しスタッフも

増員しなければならないということがあると思いますが、規模が拡大するとその辺は改善できるという見込みはあるのでしょうか。

【関三倶楽部】 これまで様々な施設を見てきた経験からすると、規模を広げることではなく、関三倶楽部のような施設の数を増やすことが必要だと思います。2床という数は当初、少なくても非常に使いづらいと思っていましたが、その2床であることによって、利用者が落ち着いて過ごされているので、この形はとりあえず良かったのかもしれないと思っています。また、部屋が全部見渡せることで、ご家族も「これなら安心」と言って預けていきますので、スペースではないと思います。

【委員】 小規模多機能の施設として、似たような形があれば良いのかなと思いました。利用できる人数がかなり限られてしまうので、これからの課題かなと思いました。ありがとうございました。

【副委員長】 介護講座を実施していますが、ニーズ的なところではどのような方が参加されているのでしょうか。

【関三倶楽部】 「Let's try」という形なので、介護だけではありません。例えば今回はヨガを実施しました。もしこの相談カードによって、必要性が出てくるのであれば、介護講座を実施していくのも良いかと思います。

【委員】 相談カードは具体的にどのようなところに配布しているのでしょうか。

【関三倶楽部】 現在は24軒しか回れていませんが、吉祥寺本町に11軒、吉祥寺東町に3軒、西久保に1軒、緑町に2軒、関前に2軒、吉祥寺南町に2軒、中町に1軒、吉祥寺北町に1軒、その他ヤクルト販売の方に託すなどしています。喫茶店が一番多くて9軒、内科クリニックが2軒、歯医者さんが1軒、スポーツジムが1軒、婦人衣料店2軒、コミセン等には置くつもりありませんでしたが、関前だけは特別と思い関前コミセンにも置いています。その他、美容院やお花屋さんにも置いています。50歳代の方をターゲットとしているので、そのような方達が行きそうな場所に置いています。

【委員長】 それでは、続いてくるみの木をお願いします。

【くるみの木】 くるみの木は今年の10月に4周年を迎えました。来年は5年目ということで最後の年となりますので、頑張ろうと思います。

くるみの木は現在1日平均27名程度の方に来ていただいております、建物としてはそんなに広くはないので来年度も27名～28名の利用を見込んで計画を立て



ています。

プログラムとして開設当初から実施している自立生活体操の人气が本当にあり、時間を区切って講座数を増やすことや、曜日をもう少し増やした方が良いのではないかと議論しているところですが、椅子を使った体操なのでとてもやりやすい内容になっています。また、その体操を毎行っている方が本当に元気になるようになってきています。全体的に体操のプログラムは人気がありますが、特に自立生活支援体操は増えています。

手話ソングや編み物教室など今年に新しく始めたプログラムについて、手話ソングは月1回では足りないという声があり、来年の1月からは月2回に増やすことにしています。また、編み物教室についても、講師が付きながらもご自身の持っている毛糸で作りたいものを自由に作れるので、良い雰囲気が続いています。

その他、ガーデニング講座をずっと実施していますが、サポーターとして来てくださっていた方の中で資格を取得された方がいるため、その方を中心に寄せ植えの講座を実施するなど、普段のプログラムの中から色んなことが発展し、新たなプログラムが生まれてきている状況をすごく嬉しく思っています。

来年度の計画として、夜の時間の施設開放を考えています。現在は夜の施設開放は行っていない、「くるみナイト」という形では少し実施していますが、もう少し月の中で、くるみナイトとは違った形で、地域に開放しながら何かできないかなと考えています。今年度はまだ具体的にできていないので、来年度に入ってからもう少し具体的な形について運営しながら考えていこうと思っています。

また、来年度は5年目でくるみの木は運営団体公募対象施設となりますが、その公募に応募したいということは皆の気持ちの中で話し合っていて決めています。既にプロジェクトチームを立ち上げ、今まで行ってきたことを検証しながら、より充実した形で地域に貢献できないかと思い、是非とも来年度の公募には応募させていただきたいと思います。

【委員】 土曜日のレスパイト事業について、この時間帯についてお伺いします。

【くるみの木】 開所時間内としています。

【委員】 例としてはどのようなものがありましたのでしょうか。

【くるみの木】 開設当初は利用者が少ないであろうということで土曜日に設定していましたが、昨年度に高齢者ではなく一般の方が参加できるプログラム

にお子様を連れて行きたいという方が出てきたため、昨年度から土曜日限定ではなく、平日でも部屋の空き状況によってお預かりできる日はお預かりしようとしています。ただ、残念なことに今のところあまり利用がありません。

【委員】 未就学児で障害のあるお子さんということだと、受け入れるにしても結構大変ではないかと思えます。そうするとスタッフのお一人はそこに付きっきりになるということでしょうか。

【くるみの木】 もともとシフトに入っていたスタッフではなく、別のスタッフが加わって対応することになります。

【委員】 平成 25 年度に力を入れて取り組みたいこととして、サポーター活動の場の充実を図るとありますが、サポーターとはボランティアのことと理解してよろしいでしょうか。また、地域活動の支援として時間外の施設の有効活用とありますが、地域活動の具体的なイメージはあるのでしょうか。

【くるみの木】 サポーターについては、地域の方でボランティア的に活動してくださる方として位置付けています。積極的に支援をしてくださる方達で、例えばブログの開設や講師として手伝ってくれる方達をサポーターと呼んでいます。地域活動に関しては、もう少し煮詰める必要があるかと思えますが、今少し落ちこぼれているお子さんや学習活動が遅れているお子さんに対し、勉強会を実施することなどを考えています。時間外施設の有効活用について提案があったため是非とも行いたいと考えていますが、テンミリオンハウスとしてどういう形で実施していくべきなのか、もう少し私達の中で検討したいと思っています。

【委員】 地域活動をしている方達、例えば今の話で言えば、学習活動が遅れているお子さんに対して勉強を教える活動をしているグループに場所を提供するというよりは、自分達で実施するというのでしょうか。

【くるみの木】 テンミリオンハウス事業を場所貸しにはしたくないという思いがあります。運営団体のワーカーズどんどろが色々な形で関わって、くるみの木をつくるのが大事ではないかと思っています。

【委員】 NPO 法人として福祉関係の事業を展開していますが、そういった事業とテンミリオンハウス事業の相乗効果を感じることはありますでしょうか。

【くるみの木】 相乗効果はお互いにすごくあると思います。くるみの木は施設で運営しており、NPO 法人としては訪問して介護を行い、また、4 月からはグループ保育室を始めたところですが、メンバーは全体で 35 人おり、なるべく皆が全部に関わるようにしていますので、お子様から高齢者まで色々な方に接

し、また、訪問して介護する時と施設を運営する時では違った面に触れることができ、その効果はよく出てきていると思います。

その他、くるみの木のスタッフとして最初関わったスタッフも、スタッフとして運営に携わっていく内に高齢者への関心が高まり、ヘルパーの資格をその後取得し訪問介護を行うようになったので、その中で気づいたことをくるみの木の運営に活かしていることは多いと思います。今の利用者が喜んで通ってくださるのも、そういう効果があったからではないかと自負しています。

【副委員長】 乳幼児親子の受入はこれまでも行っていたと思いますが、平成25年度も同じように実施するのでしょうか。

【くるみの木】 そうですね。積極的に実施している訳ではありませんが、週に2、3組の親子が昼食を食べに来ています。先日の花時計の公募ヒアリングの際、ゆう<sup>3</sup>の提案を伺っていた時にその内容が素晴らしいと思いました。私達はもう少し積極的に乳幼児親子に対して何かしていくべきと反省しています。ただ、来ていただいて昼食を食べていただき、自由に乳幼児と一緒にお母さん達が話をするという空間としては提供しています。もう少し次のステップとして働きかけが出来た方が良いと思っています。

【副委員長】 昼食を食べて行くという利用が多いのでしょうか。

【くるみの木】 そうですね。お昼時間が中心となっています。

【副委員長】 昼食の前後の時間に来所するというケース、つまりお昼を食べること以外の利用はあるのでしょうか。

【くるみの木】 そうですね。座ってゆっくりご飯を食べることができるので、喫茶だけを利用しに来るという方よりは、食事が美味しいのでと来られる方が多いです。

【委員長】 土曜日の食事サービスの要望はあるのでしょうか。

【くるみの木】 それは課題として捉えているのですが、利用者の声としても少しあると思います。土曜日にランチを提供するのであれば、もう少し利用者は増えると思います。ただ、土曜日はスタッフに来ていただくことでも精一杯なため、更にランチとなるとスタッフへの負担が大きくなります。ただ、私達はカフェランチを提供していますので、そのような形なら提供できるかもしれません。いずれにしても、これまでもずっと検討してきましたが、なかなか上手く行かないので、次期計画にはどうしてもそれは入れたいと思います。

【委員長】 それでは、第2グループ最後となりますが、そ~らの家お願いし

ます。

【そ～らの家】 今年度の4月から土曜日を開所するようになり、第1・第4・第5土曜日は午前と午後の講座を分けており、紅茶教室やオカリナ教室、携帯電話の講習、男の料理教室、無農薬野菜の料理教室ということをやってきました。第2土曜日が以前から実施していたフラワーアレンジメントを行っており、第3土曜日には健康麻雀を取り入れました。土曜日にスタッフが出ることは大変ですが、若いスタッフがやってみるということでしたので実施しています。しかし、土曜日はほとんど代表、副代表が出ないと回っていかない状況もあり、頑張って運営しています。第3土曜日の健康麻雀の時だけは、昼食にカレーライスを提供しています。他の講座は午前と午後別の講座を実施していますので、今のところ昼食の提供はしていません。

プログラムを地域の皆さんに知っていただくために、市報や南町コミセンダよりに載せており、驚いたことに市内の至るところから電話で問い合わせがあり、まずは場所の説明から始めたということがありました。皆さん楽しいと言ってくださっているため、平成25年度も継続して行っていきたくと思います。

また、4月からスタッフが若返り、お子さんが幼稚園や小学校に入っているスタッフが非常に多いです。そういう関係から、幼稚園や小学校の親子連れが来てくれるようになりました。プログラムの籐編みにも5組の親子が参加し、お子さんは塗り絵等をし、お母さんが籐編みでクリスマスリースを作るなどして楽しんでいました。また、ランチを楽しむという方も増えてきています。

先日驚いたこととして、小学校3年生の二人の男の子が突然入って来て「コーヒーを飲ませてください」と言ってきたことがありました。子どもにコーヒーもいかなものかと思い、あいにくジュースもなかったので、お茶で我慢してもらったところです。また、本宿小学校の6年生が「地域を知ろう」ということで防災ひろばについて教えて欲しいと突然やってくることもありました。

入浴サービスも開設当初から実施していますが、これまでは週に1人の方が2日入る程度でした。しかしここ最近になって、独居の方を家族が心配し「そ～らの家でお風呂に入れさせてもらいなさい」ということが増えてきています。この様子だと空きがなくなり、毎日入浴サービスを実施するというにもなり兼ねないなと感じていますが、立派なお風呂があるのでそれはそれで受け入れていきたくと思います。

最後に困ったこととして、ムーバスの停留所が来年2月に無くなってしまうことになりました。12月14日には陳情を出したことで市議会議員に説明をし

たのですが、なかなか坂道や階段の困難さについて理解されませんでした。議員の先生方もどこの場所かもお分かりで無いようでした。ちょっと残念だなと思っています。吉祥寺南町1丁目から6人来られているのですが、このことによって半分になってしまうことが懸念されます。できるだけ来ていただきたいと思っています。

【委員】 スタッフの方の在籍年数で見ますと14年3ヶ月という方と1年0ヶ月という方ばかりですが、どのように新しいスタッフを募集されたのでしょうか。

【そ~らの家】 スタッフ19名の内、6名が以前からスタッフとして活動していた人達です。以前からのスタッフは厨房に入らず、フロア担当として入っています。利用者の顔も知っているのも、利用者も安心ですし、よく分かっているということで、フロアに入っています。新しいスタッフには厨房で頑張ってもらっているのが現状です。募集としては、偶然なのですが、今の若いスタッフの親が私達と同じような年代で、若いスタッフはそのお嫁さんという方達です。そういった方達が口伝えで協力していただくことになりました。今現在でも4人の方から協力したいというお話をいただいています。ちょっと待ってもらっている状況です。

【委員】 他のテンミリオンハウスでも世代交代が課題となることが多いので、どのようにしてこれだけの方達を探すことが出来たのかと思いました。

【副委員長】 スタッフのお子さんが施設に来られているとのことですが、利用者さんはどのような雰囲気になりますか。

【そ~らの家】 今まで非常に静かに利用者も過ごしていたので、子どもの騒がしい声が入ったらどうなるのかと心配でした。ところが、やはりお子さんの可愛い声を聞けば利用者も自然と笑顔になって「今何歳？」と言葉がけをしてくれます。幼稚園くらいになりますとハッキリ答えることができますし、自分達が遊びたいと思えば別のフロアで遊んでいますので、とてもお互いに良い関係ではないかと思っています。スタッフの子どもももちろんですが、それ以外のお友達も誘い合わせて来ています。

【副委員長】 それはこれからも意識的に続けていくのでしょうか。

【そ~らの家】 来たい時はいつでもどうぞという考えでいます。ただし、土曜日に実施している講座ではこのような受け入れ方は無理かなと思います。無農薬の料理教室の時は、親子での参加も可能としましたので、親子の参加がありました。

【委員】 東京全体が高齢化で独居高齢者も増えている状況ですが、そ~らの家の利用者にも変化はありますでしょうか。

【そ~らの家】 最近ショックだった出来事として、大腸がんが2名が続けられて、90歳の方も手術をし、心配でしたが体力がついたということで1月からまた来所するという事です。もう一人の方は今月手術するとの事です。今98歳と96歳の方が来所できない状況にあり、お話を伺いましたところ、そ~らの家に行くほどの体力はないけれど、お家に居ることは元気にできているということでした。また、驚いたこととして、昨日まで来所していた方のところに突然救急車が来ていて、近所だったのですぐに向かったところ、家族が気づかないところで亡くなってしまっていたということがありました。

【委員】 中長期の目標のところ、地域向けの居場所として更に力を入れたいということですが、既に現在も充分居場所としての機能は果たしているのではないかと思うので、それを更に強化していきたいということだと理解していますが、代表の考える「居場所」の要件があればお伺いしたいと思います。

【そ~らの家】 今も居場所になっていると思いますが、まだまだ知らないという方が大勢いるということ。もっともってそ~らの家を知っていただきたいと思います。口コミも大事ですが、広報紙を出して知っていただきたいということもあります。南町福祉の会への声かけもしていますし、今日はゆとりえで防災ネットの講演会があり、若いスタッフに参加してもらい、防災の大切さも知って来て欲しいということで行かせています。地味かもしれませんが、一步一步そ~らの家を知っていただきたいということで力を入れたいと思います。

【委員】 そ~らの家は長期に亘って代表が変わっていないようですが、そういうことで施設運営がマンネリ化しないために、どんな工夫をしているのでしょうか。また、市報に書道の記事が掲載されていましたが、これは65歳以上の方ではなく、一般の方を募集したのでしょうか。

【そ~らの家】 代表としては14年やっている訳ではなく、途中から代表になっています。マンネリ化への工夫としましては、毎年違うことを計画して実施していますし、特に今年は若いスタッフの知恵を借りて色んなことを実施しているので、マンネリ化しているという実感はありません。書道について、現在書道を受講している方が、認知症の進行もあり字が書けなくなってきた中で、それでも一生懸命参加しているのですが、講師としてはもう少し元気な方にも来て欲しいということがあるので、市報に載せました。

【委員長】 ありがとうございます。それでは以上で第2グループのヒアリングを終了します。

【委員長】 それでは、これより各施設の事業計画について協議したいと思います。

まず事務局に伺いますが、月見路について、開設準備金として100万円を1,000万円の補助金以外に用意していると思いますが、開設というのは当然運営者が変わった時、新しく始める時と理解すべきではないかと思います。今回開設準備金を支出していないということには何か理由があるのでしょうか。

【事務局】 開設準備金は、基本的に施設を新しく開設する時のものとして設定しており、今回のように既に運営されていた施設で運営団体が変わる場合、その備品・什器は特に補助金で購入されたものは置いて行くことになっていますので、それを利用することとしています。その中で備品の古い、新しいということについては運営費の中で都度更新していくことになっています。よって、公募による運営団体変更の場合、開設準備金の100万円については制度として含まれていません。今回のような問題が何故発生したかと言いますと、食事を以前の運営団体は施設で作っていなかったということがあります。今回のグループ撫子は食事を提供する形になりましたので、厨房の設備は市の予算で一定の工事をし、ある程度の設備を整えましたが、細かい備品という点では不足していたということはありません。一方で、既に昼食を提供している施設の団体に変更になったとなれば、今回のような問題は発生しなかったと認識しています。少なくとも、公募によって新しく団体が変わる度に、開設準備金を支給するという制度には現在はありません。

【委員長】 確かに今説明されたような考え方もあるかと思いますが、開設準備金の目的としては「備品等」に充てるものとされているので、「開設」をどう捉えるかということだと思います。新しく施設が見つかってそこで始めることだけが「開設」ではなく、運営主体が変わって、新しい運営主体が運営を始めることも「開設」ではないかと思います。

【副委員長】 開設準備経費としての考え方ですが、100万円を100%出す必要があるのかということも議論の必要があると思います。前の運営団体が備品について可能なものは持って帰っているのでしょうか。運営の方針の違いもあり、用意すべきものが出てくるのであれば、ある程度のお金は用意するという制度であっても良いのではないかと思います。20万円や30万円程度でも良いと思

いますが、その辺の配慮があっても良いと思います。

【事務局】 基本的には補助金の中で揃えた什器・備品は施設に置いて行き、持って行かないこととなっています。前の団体が引き上げたものが全くない訳ではありませんが、それらは前の団体が法人の費用で購入したものです。現在は備品台帳を各テナミリオンスペースで揃えていますので、備品がどちらの所有物かということは明確にしています。運営団体に変更になった時はそれに基づき、新しい団体に引き継ぐものとしています。古い備品等の更新につきましては、運営費の補助金として1,000万円がありますので、基本的にはその中から、5年間の運営の中で必要な物を揃えていくということになっています。ただし、運営団体が変わった時にどういった物が必要なのかという点については、こちらの方でも検討していきたいと思います。

【委員長】 ぜひ検討していただきたいと思います。開設当初の団体が考えていることと、新しく運営主体となった団体が考えていることはやはり違いますので、最初の団体が使った備品でも、次の変わった団体が違うものが欲しいということは当然出てくるものだと思いますので、検討をお願いします。

また、そ～らの家のムーバスは来年の2月で終わるのでしょうか。

【事務局】 もともと以前は通っていなかったのですが、要望があり、陳情が出て実証実験で一定の時間帯だけ通るようバス停をつくるということを行いました。ところが、実際はなかなか乗降客がいらっしやらないことと、カーブが多いということでムーバス事業者から危険性があるという指摘を受けたこともあり、元のルートに戻ることにになりました。元のルートに戻る事が決まってお説明させていただいたのですが、やはり通して欲しいということで陳情が出ました。しかし、結果的には本会議で不採択となりましたので、元のルートに戻るということです。

【委員長】 あおばについて、9月末までの計画で出されていますが、後半はどのようなのでしょうか。

【事務局】 地権者との契約があり、それが来年の9月末までとなっているため、そこまでの実施となっていますが、その後については決まっています。

【委員長】 後半は今の段階では事業を行わないということでしょうか。

【事務局】 建物を使用できる権利の期限が来てしまいますので、そのようになりますが、もし延長することが可能であれば、事業を継続する可能性もあるということです。今のところは契約の期限がありますのでそこまでは着実にやりますということにしていますが、それ以降についてはまだ決まっています。



【委員】 市として、それを推進する予定はないのでしょうか。地権者と再契約し、また運営をお願いするという方向性はないのでしょうか。

【事務局】 色々な保育施設等との兼ね合いもありますので、例えば、年度の途中ではなく、更に半年間延長して1年間運営していただくという可能性もありますが、最終的に施設としては無くなる方向にあります。

【委員長】 あおばから利用者の方にそのような説明はしているのでしょうか。

【事務局】 今のところは来年9月末までというお知らせはしています。

【委員】 利用者にその事情をしっかりと説明しないと納得しないのではないのでしょうか。

【事務局】 どの段階かは分かりませんが、しっかりと説明しなくてはならないと思います。

【委員】 あまり短い期間しか猶予がないということになりますと、今まで利用していた方にとっては、突然無くなってしまったということで目の前が真っ暗になってしまうかもしれません。

【委員】 これは、北町保育園が出来上がることと関係があるのでしょうか。

【事務局】 偶然同じ地域ということはあるのですが、北町保育園の定数が28名増になります。ただ、それとは性質が違いますので、直接関係はありません。

【委員】 それでは一時保育のようなことは今後できなくなるということでしょうか。北町保育園ではそのような対応をすることは有り得ないと思うのですが、いかがでしょうか。

【事務局】 運営が子ども協会に移りますので、フレキシブルには対応できるかと思いますが、今のところ建て替わってすぐ実施するという事はないと思います。

【委員】 今の事業を他の施設で行う可能性はあるのでしょうか。

【事務局】 あおばの事業は特質的な事業ですので、その事業を行える施設がまた出て来てくれればという考えはあります。

【委員長】 それでは、各施設の事業計画内容については特に異論がないようですので、委員会として採択してよろしいでしょうか。

→ 委員了承。

それでは、平成25年度の事業計画を採択します。

## **(2) 平成25年度運営団体公募について**

【事務局】 資料4に基づき説明。

【委員長】 このことについて何か質問はありますか。

特にないようですので、原案のとおり準備いただき、来年度の第1回委員会で最終的な報告をお願いします。

### （3）平成24年度テンミリオンハウス事業採択・評価委員会現場視察について

【事務局】 資料5に基づき説明。

【委員長】 2月11日の実施は確定でしょうか。

【事務局】 確定となります。

【副委員長】 2月11日に利用者はいるのでしょうか。

【事務局】 祝日開所している施設の見学になりますので、利用者はいると思います。

【委員】 祝日開所しているところがどうしても決まってしまうので、毎年この組み合わせが変わっていないのではないかと思います。委員の中には祝日しか見学に行けない委員もいるので、毎年同じ施設ばかり見ている可能性もあります。可能な限り昨年とは違った組み合わせにさせていただきたいと思います。

【委員長】 祝日開所という話に関連しますと、川路さんちは週5日で祝日がお休みという施設です。そうしますと、5月は週に2日程度しか開所しないケースもあります。今は条件がないので仕方がないと思いますが、週5日開所の施設は、祝日も開所とするようにした方が良いのではないのでしょうか。利用者から不満が出るのではないかと思いますがいかがでしょうか。今日のヒアリングを聞いていても少し気になりました。現在は条件がないので、一度検討すべきではないかと思います。

【委員】 そういった意味では、きんもくせいはお盆の時期一週間お休みという計画なので、それも良いのかなと感じました。よし悪しという点では非常に難しい部分ですが、少し気になりました。

【委員長】 他に何か質問はありますか。特になければ、原案通りとし、後日日程等の調整をお願いします。

### （4）その他

【委員長】 その他としては特にないようですので、以上を持ちまして本日委員会を終了します。

4 閉会

以上